

放課後等デイサービスに係る自己評価結果公表用

公表日：令和 4年 2月 1日

事業所名：通園(デイサービス)事業
おれんじくらぶ

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

(配布36 回収9 回収率25%)

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	2	2		パーテーションで仕切ってスペースを作る。	8	1			もう少し広い方がいいと思う事がある。	ある程度の広さはあるものの仕切られた空間ではない為、個々に応じた活動を実施することや感染予防の観点から、パーテーションの使い方や必要な備品を増やすなどし、より効果的な工夫を検討したい。
	2 職員の適切な配置			4	施設のスペース的には今の配置数でよいと思われるが、放デイの活動にスタッフ不足を感じる。	9					定員に対する職員数は満たしているが、より丁寧な療育を実施するためには、増員したい。また、男性職員の登用が期待される。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備			3	1	療育内容や対象児に合わせて、できるだけ適切な環境設定を意識しているものの、設備上困難な場面もある。	9				
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保			3	1	活動に合わせた空間の設定を心がけているものの、ワンルームの中での調整の為、子どもたちにとって不十分なこともある。感染対策の為の工夫をしている。	9				感染対策中は、状況に応じて個別的空間の確保ができるよう工夫が必要。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	4			できるだけミーティングの時間を設定し、職員の意識統一などを心がけている。						時間を有効に使いながら、効果的なやり方をしていきたい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			4							
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	2	2		感染が流行してからは、消極的になっている。						しばらくは、感染対策が必要としてオンライン研修が主になると思われるが、積極的に参加できるようにする。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	3	1		「適切に」となると、やや不安な部分がある。	9					できるだけ子どものニーズを大切にすることを意識している。課題については、しっかりと保護者と確認し合いたい。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	3	1			9					
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	4			集団活動の枠の中でも個々への支援を重点に置いているので、人数を制限する事もある。放デイにおける集団活動を取り入れるようにすることで、子どもたちの新しい発見ができメリットがある。						活動内容については、計画の中で十分説明できているが、再度確認したい。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	2	2		9				
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	2	2	リーダーがメインとなり(交代制)、スタッフ間で相談して実施している。				スタッフの人数は少ないので、大筋はリーダーとなるスタッフが組み立てるが、意見を出し合っ、より効果的な活動ができることを目指している。	
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	4		特に集団の活動の際には、職員間で相談をしながら、子どもたちがどのようにすればどの子も楽しい時間を過ごせるかを考えている。	7		2	「楽しい」ことはめざしつつ、個々の支援として必要な配慮にも意識した取り組みになるように努める。	
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	3	1	長期休暇中にしかできないような活動も取り入れている。個別療育では、活動内容により時間設定を通常よりも長くする事もある。				感染対策として、地域の中での活動に対して消極的になってしまう。限られた条件の中でも必要な活動や必要な支援が実践されるようにアイデアをだしていきたい。	
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	3	1	特に集団活動においては、実施前に打ち合わせの時間を確保している。				打ち合わせは、欠かせない。個別療育については、不足している部分もあるため、確認を意識していきたい。	
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	3	1	集団活動では、療育実施後に振り返りを行っている。個別療育についてはやや不足している。				スタッフが互いに報告、相談がしやすい環境にしていきたい。	
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	4		記録は継続し、必要なものは保護者に確認してもらっている。				保護者に確認していただいても、支援の方法が伝わりやすい記録を心がけていきたい。	
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	4							
	関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	4						
		2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施							
		3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備							
関係機関との連携（続き）	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有		4	相談支援との協働により、以前よりも学校との関係が取りやすくなったと感じる。感染対策として、やや動きが取りにくい事も感じる。				こちらからの関わり次第で、町内のなかでどの機関とも良好な関係が作れると考える。お互い分からないことを分からないままにせず、積極的に情報共有を求め、子どものより望ましい支援につなげたい。	
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	1	3	町内の事業所間(放デイ、相談)では、定期的に連絡会を実施している。				互いの状況を知ったうえで、利用者がより効果的に療育を受ける事ができるよう、必要な情報は共有していく。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進		3	1					
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供		2	2	感染予防対策として、地域の中に出向いていく機会が減っている。ふれあえる経験が出来ない。	4		5	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営		3	1				感染対策として、特に地域との関係性がうすれている。	
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	4			8	1			
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	4			9				
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施			4	放デイについては実施していない。	8		1	ペアレントプログラムとしてはないが、希望されている保護者もあるため、検討していきたい。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	2	2			7	1	1	スタッフとして意識はしているものの、数字からすると、不十分で、保護者もできていないと感じているという事ではないか。実際、設定しないとゆとりと保護者と話せる時間が持たないこともあり、その方法も検討したい。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	
保護者への説明責任・連携支援（続き）	5	2	2			8			1	保護者が「相談してみよう」と思える関係性が作れていないケースもあるのではないか。日々の療育の中で、相談の体制を検討していく。
	6	2	2		保護者会での活動は、講演会等を含み年間実施されている。	5			2	保護者会活動の在り方については、保護者を中心に再検討する必要があるのではないか。（発足当時の目的の再確認や今後の保護者会の必要性や活動内容について）
	7	3	1		保護者への説明は契約時に説明する。実際に苦情のあった場合はマニュアルに沿って対応し、法人内では定期的に委員会を実施。	5			2	保護者への説明が不足しているようであり、周知の方法を検討する。
	8	4			必要に応じて、メモやカレンダーを渡している。	6	1			
	9		3	1	ホームページにて掲載。年に1回、子どもや保護者、スタッフの思いを綴った文集を制作している。（保護者会と共に）事業所内に活動や行事の様子を写真で記録し閲覧してもらえるようにしている。	5			2	マチコミ登録を検討している。活用したい。
10	4			契約時に説明等を行い、その後も十分に配慮している。	7					
非常時等の対応	1	3	1		同法人の保育所との連携により策定している。	4			3	マニュアルとしてはあるものの、いざという時に対応できるかと言う事にはやや不安がある。シミュレーションするなどし、緊急時に対応できるようにしたい。また、保護者への周知も徹底する。
	2	3	1		同法人の保育所の実施に合わせ、実施している。月1回の避難訓練は事業ごとに又、対象児ごとに実施できるように計画している。	4			3	実施できていないこともあるため、曜日ごとで子どものメンバーも違い形で実施していきたい。
非常時等の対応（続き）	3	2	2							外部で出来ない時には、事業所内で研修の機会を持つようになっている。
	4		4							
	5		4							
	6	4			振り返りの際に、ヒヤリハット、アクシデントについても検討している。					環境の設定や職員の配置などについて改善点を確認し、同じ失敗のないよう心がけている。